

『横山忠弘著作集（Ⅱ）』について

横山 忠弘

はじめに

（1）『歴史研究』誌 特集『横山忠弘著作集』の出版

私は平成二十七年八月に、基本的には総合出版社歴研発行の『歴史研究』特集に投稿して同誌に掲載された、平成八年六月から平成二十五年一月間における私の論文集を総合出版社『歴研』から『横山忠弘著作集』として出版した。これは歴史項目五十五編、特別収録三編から成っている。

（2）地域歴研『横浜歴史研究会』及びテーマー歴研『中国の歴史と文化を学ぶ会（中文会）』への私の投稿論文

一方において私は次の（イ）、（ロ）のことをも平行して行って来た。

（イ）平成八年五月に地域歴研『横浜歴史研究会』に入会以降平成九年から毎年一回は同会の月例会に研究発表しており、この研究発表を基にした論文を年二回発行の会誌『歴研よこはま』に投稿し掲載されたが、この論文テーマーは『歴史研究』特集テーマーに関連するものが多かった。

（ロ）また、平成十二年一月にはテーマー歴研『中国の歴史と文化を学ぶ会（中文会）』に入会して以降、平成十三年から毎年一回欠かさず月例会に研究発表しており、これを基にした論文は年一回発行の会誌『ちゅうぶん』に掲載されたが、これら論文も『歴史研究』特集テーマーに関連しているものが多かった。

（3）横山忠弘著作集（Ⅱ）の出版

これら（2）（イ）及び（ロ）に係る私の論文は『特集』の論文とは違って、概して長文で表や図、写真が多く、論文そのものも、より具体的で且つ迫真性をも兼ねていたので、これ等の論文を集約したところ、『歴研よこはま』が二十五編、『ちゅうぶん』が十五編計四十編となった。しかしながら、これらのなかから既刊の『横山忠弘著作集』との重複、錯綜する編を除き、最終的には四十編のうちから、『歴研よこはま』十編、『ちゅうぶん』九編、計十九編へと絞込んだうえ、この度『横山忠弘著作集（Ⅱ）』として、編集・進行等を神奈川歴史研究会理事武士俣光也氏、出版を総合出版社歴研吉成勇氏にそれぞれお願いして、出版しようとするものであります。

平成二十八年七月吉日 横山 忠弘

目次

- 1 山内首藤氏と宍戸氏の軌跡—頼朝没後八百年に寄せて—
- 2 元寇の勝利と神国思想
- 3 平安律令政権と鎌倉武家政権との相克—大河ドラマの『北条時宗』によせて—
- 4 近世日中文化交流から近現代を展望する
- 5 倭人の起源—皇祖太伯伝説と天神後裔史観—
- 6 歴史上心にのこるじんぶつ像—昭和天皇と二宮金次郎—
- 7 戦前・戦後・昨今の私の中国観
- 8 日露の戦いとその後の日本—日露戦争前後の日米英—
- 9 大正・昭和前期の難局に生きた人—開戦時の首相東条英機—
- 10 好きな人物・嫌いな人物の筆頭、豊臣秀吉の実像
- 11 私の靖国神社問題考—変貌著しい靖国神社—
- 12 創立二十周年記念文集—倭人から日本人への道程—
- 13 私の韓国併合是非論—韓国併合の道程—
- 14 明治の脱亜・滅亜・興亜各論とその行方
- 15 石原莞爾の生涯と満州国
- 16 横浜開港百五十年、生みの辛酸の道程—横浜開港百五十年—
- 17 戦後の日中関係史
- 18 東アジア世界の日本—古代から近代—
- 19 古代中国・朝鮮・日本と倭族

横山忠弘略歴（○＝単年・●＝経年）

- 昭和九年（1934）十一月九日、父重邦（24歳）母ムツノ（旧姓堀江22歳）の三男として、広島県安佐郡鈴張村2335番地（現広島市安佐北区安佐町鈴張）に生まれる。
- 昭和十六年（1941）四月、村立鈴張国民学校入学。同年十二月八日、大東亜戦争勃発。
- 昭和二十年（1945）八月六日、広島市に原爆投下。同年八月十五日敗戦。
- 昭和二十二年（1947）四月、新制村立鈴張中学校入学。
- 昭和二十五年（1950）四月、広島県立可部高等学校入学。
- 昭和二十八年（1953）四月、私立同志社大学経済学部入学。
- 昭和三十二年（1957）四月、日本住宅公団入社（昭和三十年七月設立、昭和五六年十月住宅・都市整備公団、平成十一年十月都市基盤整備公団、平成十六年七月都市再生機構（UR））
- 昭和三十六年（1961）十二月、（父宮崎茂・母つや四女）賀代子と結婚。
- 昭和三十八年（1963）二月、長男典弘誕生。
- 昭和四十一年（1966）五月、長女彌鈴誕生。
- 昭和六十三年（1988）六月、日本住宅公団改組の住宅・都市整備公団から（財）住宅管理協会（理事）出向。
- 平成二年（1990）六月 大塚雄司建設大臣（昭和三十年七月、日本住宅公団職員を経て東京都

議会議員、衆議院議員を6期務めて就任)の公団有志主催の大臣就任祝賀パーティに出席。

- 平成三年(1991)六月、住宅・都市整備公団から都市再開発(株)(取締役)出向。(後常務取締役)。
- 平成四年(1992)四月、実兄邦治の推薦・紹介により『歴史研究会』へ入会。
- 【実兄邦治略歴】平成七年四月～九年三月の間、学校法人武田学園・広島文教女子大学学長、平成九年四月～同十八年三月の間、中国大連外国語学院、中国大連理工大学客員教授を歴任。その間、大連図書館所蔵の満鉄資料始め膨大な書籍群の全貌を明らかにし、平成二十年春の叙勲において『瑞宝中授章』を授章。広島大学文学博士。
- 【横山忠弘・歴史研究「特集」投稿・掲載の概要】
歴史研究「特集」に投稿した第1号は、平成9年1月号(第428号)の『特集毛利元就の謎』(この投稿原稿はその時は所謂没原稿)であったが、そこから起算して平成25年1月間における『歴史研究』発行回数181冊中、『特集』への投稿回数は50回、うち採用38編、没12編であった。しかしながら、この没投稿原稿12編も、『歴史研究』の「史談往来」または所属する地域歴研「横浜歴史研究会」の会誌「歴研よこはま」誌上、及びテーマ歴研「中文会」の会誌「ちゅうぶん」誌上、或いは地域歴研「神奈川歴史研究会」の会報月刊「歴研神奈川」紙の何れかに掲載されており、歴史研究「特集」への投稿原稿は総て陽の目を見ている。
- 平成五年(1993)八月、テーマ歴研『渡来氏族と古代東アジアを考える会』に入会。平成八年六月発行の『創立満十周年記念誌・渡来文化』に『壬申の乱と私の歴史観』が掲載される。所謂【歴史研究「特集」】投稿原稿第一号として位置付けた。
- 平成八年(1996)五月、地域歴研『横浜歴史研究会』に入会して、平成九年から毎年一回は月例会に研究発表している。また年二回発行の会誌『歴研よこはま』には、殆ど欠かさず投稿、掲載されている。
- 平成十一年(1999)三月、都市再開発(株)顧問退職。悠々自適の身となる。
- 平成十二年(2000)一月、テーマ歴研「中国の歴史と文化を学ぶ会」に入会。以降、平成十三年から毎年一回欠かさず月例会に研究発表している。また年一回発行の会誌「ちゅうぶん」には欠かさず投稿、年2～3回発行の「中文会ニュース」にも殆ど投稿している。
- 平成二七年(2016)八月、「横山忠弘著作集」を総合出版社歴研(主幹吉成勇氏)から出版した。
- 平成二七年(2016)九月以降十二月までに『歴研よこはま』および『ちゅうぶん』誌上に掲載された四十編の中から十九編を選び抜き、横山忠弘著作集(II)として、編集・進行等を神奈川歴史研究会理事武士俣光也氏、出版を総合出版社歴研吉成勇氏に依頼しているところである。